

小学四年

国語

解答と解説

1

問一
①
カ
②
イ
問二
③
エ
④
イ
問三
ウ

(完答)
21
22
23
24

問四
テ
ス
ト
つ
づ
り

25

問五
ア
問六
イ
問七
エ
問八
イ
問九
エ

26
27
28
29
30

問十
買
い
物
袋
か
問十一
ウ

31
32

2

問一
イ
問二
A
カ
B
ウ
C
オ

(完答)
33
34

問三			
ら	な	の	木
。	け	間	の
	れ	隔	影
	ば	も	に
	な	時	は
	ら	間	太
	ず	や	さ
	、	季	が
	精	節	あ
	度	と	る
	が	と	し
	落	も	、
	ち	に	目
	る	変	盛
	か	え	り

35
36
37
38

5		4		3			
⑥	①	①	④	①	問七	問四	
民 宿	暗 唱	イ	主語 ア	主語 ア	イ	エ	39
64	59	54	(完)	(完)	44	問五	
⑦	②	②	述語 工	述語 工	問八 ウ	ウ↓	40
梅 酒	市 松	③	51	48	45	ア↓	(完)
65	60	ウ	⑤ 主語	② 主語	問九 イ	イ	41
⑧	③	④	工	ウ	46	問六 ⑥	
求	行 司	⑤	述語 イ	述語 工	問十 ウ	イ	42
66	61	56	(完)	(完)	47	⑦	43
⑨	④	⑤	⑥ 主語	③ 主語		ア	
建	温 帯	ア	イ	ウ		⑧	
67	62	57	(完)	(完)		工	
⑩	⑤	⑥	述語 工	述語 オ			
散	給 食	58	53	50			
68	63						

(配点)

{ ①〔問二〕各2点、他各5点
 ②〔問三〕8点、〔問六〕各2点、他各5点 } 計150点
 ③④⑤各2点

【解説】

① まはら三桃の「青がやつてきた」（偕成社）から出題しました。主人公の美央の表情や態度から気持ちを読みとりましょう。この作品は、気持ちや行動の理由が直前や直後で説明されていることが多いので、問いの参考にしましょう。

問一 A2 知識 関係つけ

体の一部の漢字を使った慣用句の問題です。①の直後に、「目の前に大きなボスターがあらわれたのだ…さつきまではぜんぜん気がつかなかった」とあることから、驚いていることがわかります。ですから、ここには「目をまるくする」という慣用句をつかうことがわかります。②の直前に「サーカスがくるんだ」とあるので、ここには「ワクワクする気持ち」をあらわす「胸がはずむ」という慣用句をつかうことがわかります。

問二 B1 関係つけ 比較

③の直前に「…つづり持ってきた?」…つめよられてとあるので、相手の迫力にひるんでいるさまを表す、「たじたじ」が入ります。⑥の直後に「平均点より三十点も下だ」「こんな点数」とあるので、美央はこれをひどい点数だと思っていることがわかります。ですから、ここには「さんざん」が入ります。

問三 B1 具体化 比較

線④の直前に「二倍に責められているような気持ち」「登校していく…はずかしい」とあるので、この二つの気持ちに

耐えられずに、ごまかしてこの場から去ろうとしているのがわかります。この二点がおさえられているのは、ウです。ア「テ」ストつづりを持つてきてないと責められた、イ「他の人からめぐちゃんと友達だと思われるのははずかしい」の部分が本文の内容とあいません。エ他の人からちらちら見られるのははずかしい、という理由にふれられていません。

問四 B1 理由 関係つけ

線⑤の直後に「たぶん、つづりのせいだ。ランドセルの中に入っているテストつづりには、『見ました』の印鑑がない」とあります。落胆するお母さんを見たくなくて、テストを見せられないままになっていること、つづりを提出しないことでめぐちゃんに責められるだろうことを思うと気が重くなるでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 理由 比較

「きょうは体育館をつかえる」というニュースが、なぜめぐちゃんにとつても「いいニュース」になったのかを考えましょう。後の「美央の学校では」からの二段落でその理由が説明されています。そこには、体育館をつかえる機会はなかなかまわってこないこと、外で練習をするのは「やりにく」く、「体育館のほうで、だんぜん調子が出る」ことが書かれています。イは「体育館をつかえる」というニュースと全く関係がありません。ウ「怒りのほこさき…むいた」、エ「今後は…ずつと…つかえる」の部分が本文の内容とあいません。

問六

B1 理由 比較

⑧・⑨の直前の二段落から、美央はバレエボールが得意で、それを楽しんでるのだと読み取れます。それまで美央の頭の中をしめていたのは、テストつづりのことでしたが、今日思い切りバレエボールを楽しめると思ってた気が楽になったのでしよう。ですから答えはイです。ア「めぐちゃんのこと」が「ふくらんだ」としたら、「楽になった」ということはありえません。ウ⑧・⑨の直前の二段落は美央がバレエボールを楽しんでいることを説明する部分で、めぐちゃんのくやしがる姿を見られたことを喜んでいて、ということを中心にしているわけではありません。エ正解のイの方がより具体的ですし、美央の気持ちに近いといえます。

問七

B1 理由 比較

直後に「理由はわかっている。ランドセルのせいだ…」バレエボールがじょうずにできなかったことよりも、重大な事態を、美央は背中にしよっている」とあります。ですから、重荷になっているのは、お母さんに見せていない「テストつづり」のことであって、バレエボールのことは関係ないということがわかります。ですから、バレエボールのことにふれているイやウは不適切ということになります。ア「めぐちゃんが…」告げ口したわけではありません。

問八

A2 知識 比較

「あんじょう」（案の定）とは思っていたとおり、予期していたとおり、という意味です。

問九

B1 具体化 比較

——線⑫直後に「美央は全身に力を入れた」とあって、美央が緊張して身構えていることからアは不適切です。また、そのあとのお母さんのしゃべり方を見ると、泣き出しそうになったり、興奮したり、とあるイやウではありません。

問十

B1 具体化 関係づけ

お母さんの「機嫌がどんどんわるくなっている」ことがわかる行動を探しましょう。すると「買い物袋から、中身を取りだす手つきが、どんどんあらくなっている」という部分が見つかります。「どんどん」「あらくなっている」という表現から、しゃべっているうちにどんどんわいてきているいらだちを読みとります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一

B1 具体化 比較

「桜島がもくもくと煙をはいていた」から不穏な雰囲気を読みとみましょう。また、「逃げ場をさがすように」とあるので、早くこの時間が終わってほしい、と思っていることもわかります。そして、目をそらした先に、いつ噴火するかわからない桜島があります。そこから美央の中にある漠然とした不安やゆううつなどが読み取れます。よって、答えはウです。ア「ヒステリックに美央を責めることで、スーパリーの仕事でたまつたストレスを解消しようとするお母さん」、イ「雄大な自然を見て楽しんでいる」、エ「親としての愛情がない」「自立したい」などは本文から読みとれません。

2

池内了『時間とは何か』（講談社）から出題しました。時計の歴史が書かれています。それぞれの時計の欠点や長所をつかみましよう。またその欠点をうめるための技術や工夫はどんなものか、そしてどんな時計が生まれたのかを歴史にそって読みとりましよう。

問一 B1 具体化 比較

線①の直後に「まず気づいたのが」と時間を測る方法を説明している段落があり、そこには、「木の棒を立てて影の位置を追っかければ時間が測れる」とあります。木の影の位置、すなわち「木の影の長さや場所」にふれられているのはイです。

問二 B1 理由 関係づけ

線②の直後に、「北半球では木の影が右回りに動くことから、時計の針も右回りになったと考えられているから」と理由が説明されています。ここから今、時計の針が右回りなのは、日時計の木の影が右回りに動いていたことに由来していることがわかります。そして、日時計の影が右回りになるのは北半球です。だから、北半球の人が日時計を発明した、といえるわけです。

問三 B2 理由 推論

線③の直前に「そこで」とあるので、ここより前に、日時計がおおまかな一日の時間しか測れない理由が示されていることがわかります。そこには、「木の影に太さがあるし、目盛りの間隔も時間や季節とともに変えなければならず、精度が落ちるからです。」とあります。この部分を使って答えを

つくりましよう。理由を問われているので、文末は「〜から。」です。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問四 B1 理由 比較

線④を含む一文は「その欠点を補うために工夫されたのが」からはじまります。ですから、欠点は何かを読みとる必要があります。その欠点とは「水が多くなったとき」は速く流れ、水が少なくなると遅くなってしまうこと」です。すなわち、上の桶の中の水が減るにつれて、水が流れる速度が遅くなってしまいうので、上の桶の水の量を一定にしておかないと、流れる水の量が時間を正確に測れなくなる、ということになります。このことが説明されているのはエです。ア「同じ時間内に流れる水の量は同じ」、イ「時間が経つにつれて…速くなったり遅くなったり」、ウ「水が多くなったとき」は…ゆつくり流れる」の部分が必要で不適切です。

問五 B1 関係づけ 比較

文の並べ替えの問題です。指示語や接続語に注目して、文を並べ替えましよう。ウ「しかし、水を注ぐ割合をいつも調節しなければなりません」とありますが、これは上の桶の水の量を一定にするために水を注ぐ際に生じる問題点です。ですから、はじめにウがきます。その問題点を解決する方法が「そこで」から始まるアの「上から下へ…順々に水が下の桶にた

まっすぐにいくように」する、ですから、次にアがきます。イ「そうすると…水の量はいつも…同じくらいになるので…時間が正確に測れる」とあるので、これは結びの部分です。

問六 B1 関係つけ 比較

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。⑥の前には、砂は量に関係なく同じ速さで落ちること、後で砂時計ができた、ということが書かれているので、ここには順接の「そこで」が入ります。⑦の前では大きな砂時計を作る際の課題である「砂を沢山用意：砂粒の大きさをそろえる必要がある」ことが書かれており、後でも「空気が出入りできない容器」が必要、というように、課題が書かれていますから、ここには並立の「さらに」が入ります。⑧の前では「作るのはむずかしい」とあり、後で「作られている」となっているので、ここには逆接の「でも」が入ります。

問七 B1 具体化 比較

——線⑨の直前に、「これを」とあるので、直前に書かれている内容「ランプが大きくふれても…同じ時間であること」が「振り子の等時性」であることがわかります。これと同じ意味の表現はイです。

問八 B1 具体化 比較

「その数」ですから、直前の内容から、小さな金属片（テンプ）の振動した数だとわかります。

問九 B1 関係つけ 比較

本文では、日時計から腕時計にいたるまでの時計の歴史が書かれています。ですから、どの段落にどの時計のことが書かれているかを読みとりましょう。【1】から【4】までは日時計のこと、【5】・【6】は水時計のこと、【7】・【8】では砂時計のこと、【9】・【10】は水時計や砂時計では測るのが難しい、短い時間を測るための方法、【11】と【12】では振り子時計のこと、【13】は腕時計のことが書かれています。よって、答えはイです。

問十 B1 関係つけ

脱文挿入の問題では、そこでしか出てこないようなポイントになってくる言葉を探します。この場合、「振り子」です。振り子時計の話をしているのは【ウ】の部分です。

3

A2 知識 比較

主語と述語の問題です。まず述語から探し、それをしたのはだれか？ それはなにか？ というように考えると主語をとらえやすくなります。

- ① 述語は「行きます」です。「行く」のはだれかと考えると、「ぼくは」が主語になります。
- ② 述語は「評価された」です。「評価された」のは何かと考えると、「絵が」だとわかります。
- ③ 述語は「ゲームです」です。ゲームはなにとして欲しかったのかと考えると、「プレゼントは」が主語だとわかります。
- ④ 述語は「運動します」です。だれが運動しているのか考えると、「父も」が主語だとわかります。
- ⑤ 倒置文（文が通常の語順ではない文）です。通常の語順に直すと、「この／湖は／とても／美しいね」です。述語は「美しいね」です。この文の中で、なにが美しいのか、と考えると「湖は」が主語になることがわかります。
- ⑥ 述語は「きれいだ」です。何がきれいなのかと考えると、「字は」が主語だとわかります。

4

A1 知識 比較

ことわざや慣用語の問題です。意味も一緒にしつかり覚えておきましょう。

- ① 寝耳に水：急に思いがけないことがおこり、非常に驚くことのとたとえ。
- ② 百聞は一見にしかず：何回も人の話を聞くよりも、たった一度でも実際に見ることのほうがよくわかること。
- ③ 風前のともしび：風のふくところにあるろうそくなどの火は消えやすいことから、物事がいまにもだめになりそうなこと。また危険がせまっけていて命が危ないこと。
- ④ 歯に衣着せぬ：相手の気持ちなどにこだわらず、思っていることをはっきり言う。
- ⑤ 頭角をあらわす：知識や才能が優れていて目立つようになる。